

福岡アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議 次第

第3回

日 時： 令和6年 10 月 31 日(木) 14時 00 分～

場 所： 福岡アジア美術館 8階会議室

－ 次 第 －

1. 事務局より挨拶

2. 議事

・拡充先選定にあたっての評価・比較

3. 意見交換

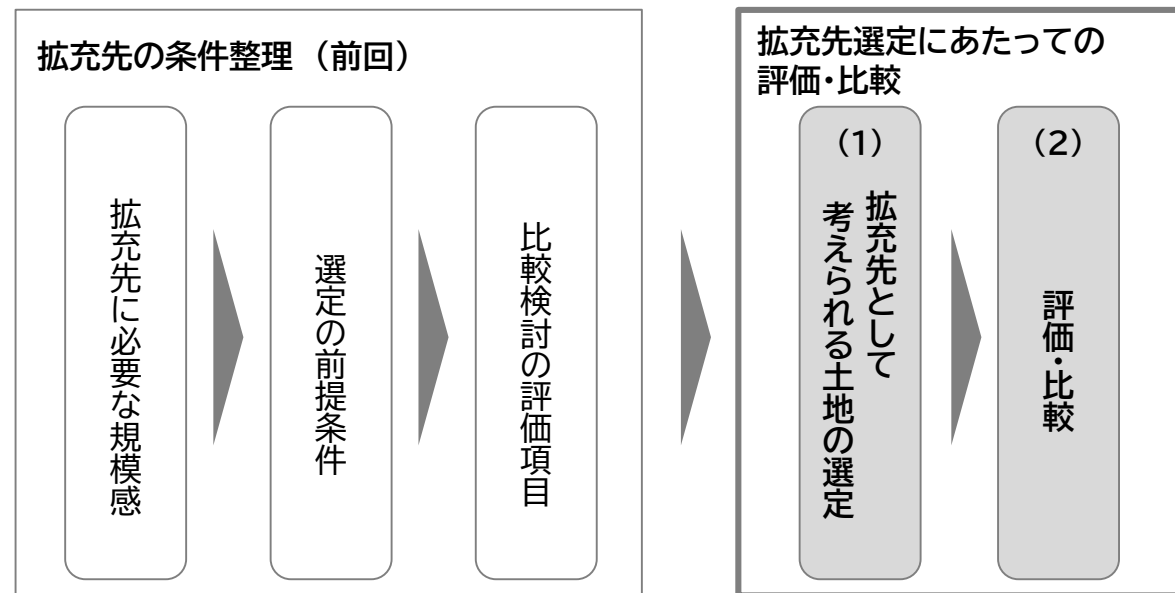
< 配付資料 >

資料Ⅰ 第3回「アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議」資料

参考資料 ・ 令和6年9月議会 経済振興委員会 報告資料

「アジア美術館の魅力向上の検討状況について」

■ 拡充先選定の進め方



1. 拡充先として考えられる土地の選定

○選定の前提条件（前回の振り返り）

① 拡充先の状態について

計画のしやすさや、土地取得の可能性の高さといった、実現可能性の観点から、公有地を優先とし、空地や活用の可能性が見込める予定の場所等であること

② 拡充先の規模について

- 床面積規模の想定 約7,500～9,000㎡程度
- 展示室の高さの想定 約4～5m以上

③ 拡充先が位置するエリアについて

- 都心部に位置する土地であること

○拡充先として考えられる土地の洗い出し

前提条件①～③に基づいて、都心部に位置する公有地を優先とし、活用の可能性が考えられる土地や未利用地(跡地)などを拡充先として考えられる土地として洗い出す。

※ 美術館として長期的に占有するため、取得可能な土地を対象とする

※ 公有地としては公園も該当するが、既に多くの市民に利用されており、既存の公園の機能を低下させずに、美術館としてふさわしい形態で建築可能な面積を有する公園が見当たらないため、公園は除外する

ただし、既存構造物の活用が見込める「警固公園地下駐車場」は拡充先として考えられる土地に含めるものとした

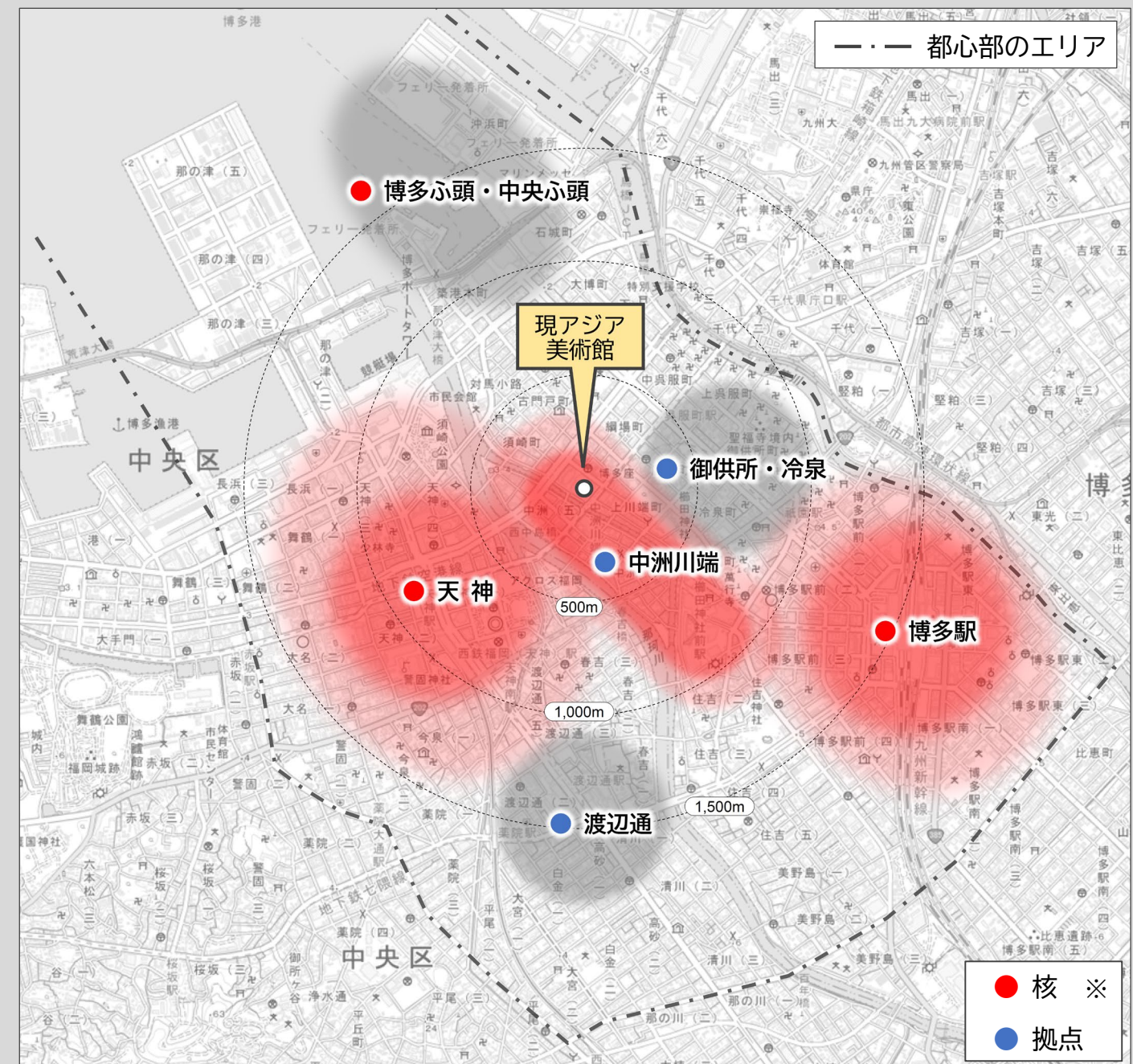
対象エリアの検討

拡充先として考えられる土地が位置するエリアは、都心部のうち、現アジア美術館との近接性・回遊性や、集客性・賑わい性、都市機能の集積等が高いエリアを対象とし、土地の洗い出しを行う。

＜検討結果＞ 都心部の核および拠点を対象に、現館が「中洲川端」エリアに位置することを踏まえながら、近接性・回遊性については現館との距離・移動時間を、集客性・賑わい性については歩行者交通量を、都市機能の集積状況については商業、業務機能を始めとした多様な機能の集積状況を鑑み、以下のエリアを対象とした。

⇒ 天神エリア周辺、博多駅エリア周辺、中洲川端エリア周辺に位置する土地とする

＜位置図＞



※「福岡市都市計画マスタープラン 都心部の将来の都市構造（都心部編）」(H26.5)を参考に記載

1. 拡充先として考えられる土地の選定（つづき）

○拡充先として考えられる土地の選定

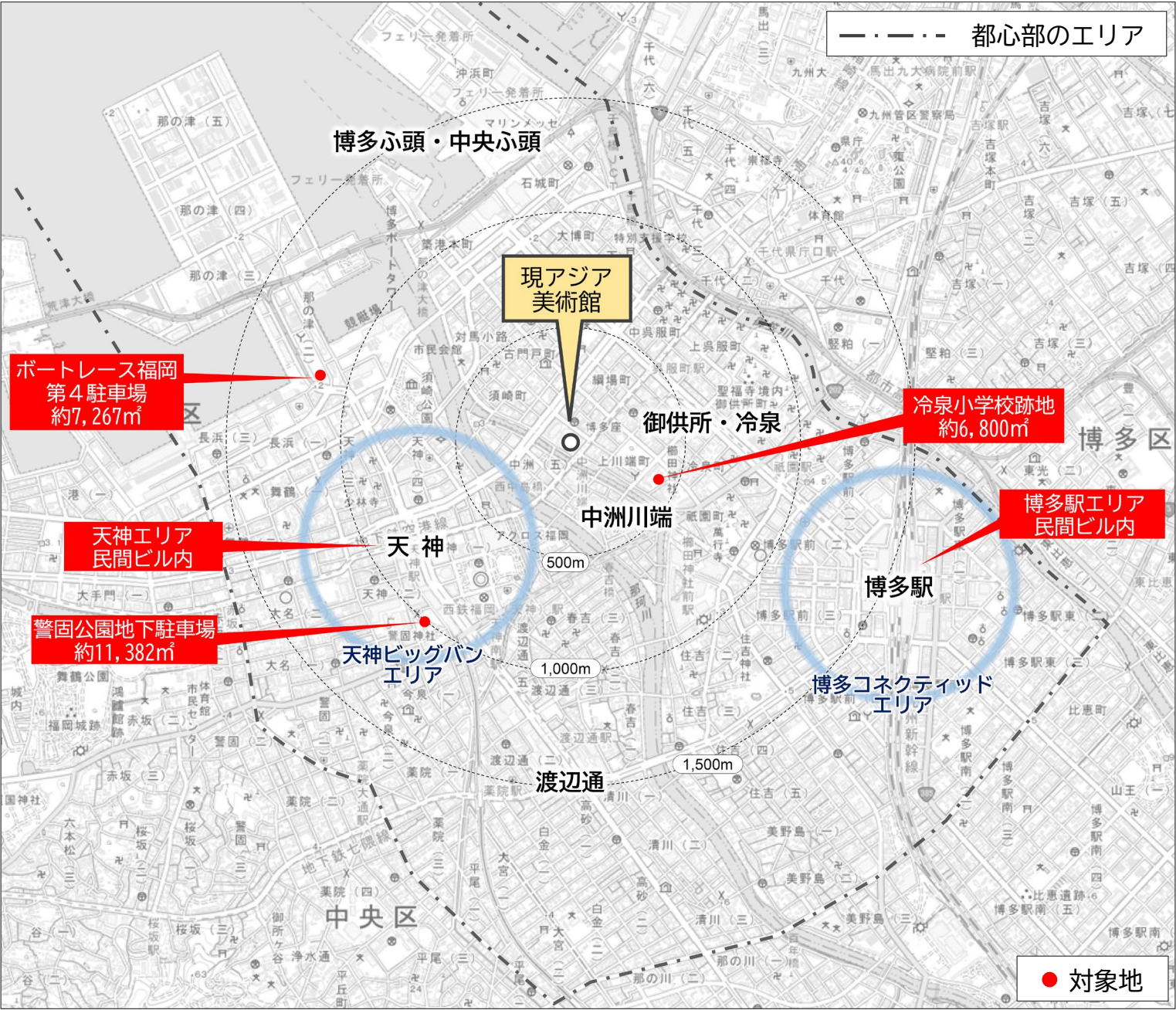
前述の洗い出しにより、拡充先として考えられる、評価・比較の対象とする土地を以下のとおりとする。

評価・比較の対象とする土地（対象地）

- ・ボートレース福岡第4駐車場
- ・冷泉小学校跡地
- ・警固公園地下駐車場（既存利用）
- ・天神・博多駅エリアの民間ビル内 ※

※ 公有地を優先とするが、比較検討のため、民間用地を想定する。
（都心部のうち開発動向が高いエリアとして、天神エリアの天神ビッグバン、博多駅エリアの博多コネクティッドの範囲内にて想定）

<対象地の位置図>



2. 評価・比較

前述で絞り込んだ対象地について、「比較検討の評価項目」に基づき評価・比較を行っていく。評価にあたっては、小項目ごとに点数を付け、評価結果を総合的に比較し、拡充先を決定する。

<比較検討の評価項目>

大項目	小項目	評価の内容・視点	備考
土地の状況	整備の実現性	・ 早期の整備実現可能性（土地取得可能時期など）、土地の面積等を踏まえた美術館立地の実現可能性	・ 特に拡充する機能（展示機能や集客・賑わい機能）の必要となる規模の面積が確保可能か ※必要面積は下記に記載
美術館活動	美術館の魅力向上、地域連携、地域の価値向上	・ 芸術文化、文化観光の象徴的な施設としての展開可能性 ・ 周辺施設（商業、業務機能等）との連携など、アート、文化観光の核としての展開可能性 ・ 文化的施設（文化施設、ギャラリー等）との連携など、アート、文化観光の核としての展開可能性 ・ 美術館立地によるまちへ与える影響	・ 魅力訴求に効果的で、存在感のある象徴的な建物を建築できる可能性を有しているかを評価する ・ 各対象地周辺の商業事業所数、消費や娯楽を目的としたにぎわい連携が期待できる業種の数进行评估する ・ 各対象地周辺の文化施設数（美術館・博物館に加え、劇場・ホールや図書館の他、民間によるアートギャラリー、映画館等）により文化・アートに関心の高い層が集まる相乗効果を図ることを目的に、軒数を評価する ・ 美術館立地によるまちへの波及効果、付加価値の向上などを評価する
利便性	広域からのアクセス、交通アクセス	・ 主要駅（博多駅、空港駅、天神駅）からの到達時間 ・ 最寄りの公共交通機関（電車、バス）からの到達時間	・ 来訪時に利用すると想定する主要駅からの到達時間を算出し、アクセス利便性を評価する ・ 来訪時に利用すると想定する最寄駅からの到達時間からアクセス利便性を評価する
集客性	歩行者交通量、最寄りの公共交通機関の乗降客数	・ より多くの、多様な集客が昼夜ともに見込めるか	・ GPSデータからなる前面道路の通行人数、属性等の推測値を評価する ・ 来訪時に利用すると想定する最寄り駅の1日の乗降客数を評価する
安全性	安全安心	・ 災害等のリスクへの対策可否	・ 各敷地における洪水浸水想定深さおよび高潮浸水想定深さについて、福岡市ハザードマップの数値を確認し、対策が可能か確認する
経済性	土地取得費、建設工事費	・ 各土地の路線価等により概算 ・ 改修工事、造成工事の必要性など各土地の状況も加味し概算	・ 土地の取得を基本的な条件とし、土地取得費には建物取得費も含む ・ 約7,500㎡～9,000㎡の床面積の規模感において、美術館の内装工事費を想定して試算 ・ 建設工事費には外構工事（公園整備費等）、備品購入費（展示ケース等）等は含まないものとする

<拡充する機能（展示機能等）の必要となる規模の面積について>

展示室空間等、拡充する機能の必要となる規模の面積が確保可能か、対象地ごとに個別に検討を行った。

現在のアジア美術館の展示室（面積1,000㎡程度）は手狭であり、美術館としてのコレクションを活かした魅力的な展示、大型作品を活かしたダイナミックな展示を行うには、第2回有識者会議にて必要な規模感として想定した展示室面積2,000～2,500㎡程度を1フロアで一体的に利用可能な空間として確保できることが望ましい

2. 評価・比較 (つづき)

○評価・比較結果

A：非常に優れている 5点
B：優れている 4点
C：普通 3点
D：やや劣っている 2点
E：劣っている 1点

※拡充先を選定するにあたり、重要な視点である、「整備の実現性」、「美術館活動」、「集客性」、「経済性」は2倍として評価する

カテゴリー		公有地				民間用地			
対象地		ポートレース福岡第4駐車場		冷泉小学校跡地		警固公園地下駐車場		天神・博多駅エリアの民間ビル内	
概要		土地面積 約 7,267㎡ 美術館を新設		土地面積 約 6,800㎡ 美術館を新設		土地面積 約 11,382㎡ 既存地下駐車場の構造物を活用		民間ビルの低層階に占有	
土地の規制状況		準工業地域(準防火地域) 臨港地区(商港区) 建蔽率 60% 容積率 300%		商業地域(準防火地域) 建蔽率 80% 容積率 400%		商業地域(防火地域) 都市公園法により建蔽率 12% 容積率 400%, 600% ※既存公園施設含む		商業地域(防火地域) 建蔽率 80% 容積率 600% ※想定	
比較検討の評価項目	土地の状況	・現在、駐車場として利用しており、かつ臨港地区により建てられる建物用途に制限があるものの、実現可能性はある ・土地取得に際しては、土地を所管する港湾空港局と協議が必要	C 3点 ↓ (6点)	・敷地中央部に遺構が横断しており、これを考慮した施設配置を検討したところ、1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保することが困難	D 2点 ↓ (4点)	・都市公園法による建蔽率の制限があり、地上部の建築計画に制限があるものの、既存の地下構造物を活用可能であり、実現可能性が高い	B 4点 ↓ (8点)	・低層階への配置が望ましいが、民間の開発動向に左右され、美術館配置に関する協議調整・合意形成に時間を要するなど、実現性が不透明	D 2点 ↓ (4点)
	美術館活動	・建築的自由度が高く、象徴的な施設展開が期待できる ・周辺の商業事業所数や消費や娯楽等の業種数が現館と比べ少なく、連携が期待しにくい ・文化的施設数が現館よりやや少なく、連携が期待しにくい ・まちへの文化芸術の面的な広がりが期待しにくい	C 3点 ↓ (6点)	・当該地は地域をはじめとして、様々な機能の導入が求められており、複合的な施設となる可能性が高く、美術館単体としての象徴的な施設展開が難しくなる懸念がある ・周辺の商業事業所数や消費や娯楽等の業種数が現館と同程度であり、連携が期待できる ・周辺の文化的施設数が現館と同程度であり、連携が期待できる ・市内外から多様な人々が集まり、文化的価値の波及を期待できる	B 4点 ↓ (8点)	・地下であるものの、地上の公園を活かした象徴的な施設展開、周辺施設と連携した活動の展開が期待できる ・周辺の商業事業所数、消費や娯楽等の業種数が非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・周辺の文化的施設数が現館よりも非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・公園を介して、まちへの文化芸術の面的な広がりが期待できる	A 5点 ↓ (10点)	・複合的な施設となり、建築的自由度は施設の状況により左右される可能性がある ・周辺の商業事業所数、消費や娯楽等の業種数が非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・周辺の文化的施設数が現館よりも非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・ビルを中心とした文化芸術のまちへの広がりを期待できる	B 4点 ↓ (8点)
	利便性	・主要駅からの到達時間が現館と比べるとやや時間がかかる ・最寄のバス停(福岡市民会館)から現館と同程度の到達時間でアクセス可能	C 3点	・主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 ・最寄駅(櫛田神社前駅)から現館と同程度の到達時間でアクセス可能	B 4点	・主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 ・最寄駅(西鉄天神福岡駅)から現館よりもやや短い時間でアクセス可能	A 5点	・主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 ・最寄駅(天神駅・博多駅)から現館よりもやや短い時間でアクセス可能	A 5点
	集客性	・歩行者交通量が現館に比べ少なく、昼夜も差があり、やや偏りがある ・最寄駅(天神駅)の乗降客数が非常に多い	C 3点 ↓ (6点)	・昼夜ともに歩行者交通量が多く、多様な集客も見込める ・最寄駅(中洲川端、櫛田神社前駅)の乗降客数が多い	B 4点 ↓ (8点)	・昼夜ともに歩行者交通量が非常に多く、多様な集客も見込める ・最寄駅(天神駅)の乗降客数が非常に多い	A 5点 ↓ (10点)	・昼夜ともに歩行者交通量が非常に多く、多様な集客も見込める ・最寄駅(天神駅・博多駅)の乗降客数が非常に多い	A 5点 ↓ (10点)
	安全性	安全安心(洪水/高潮)	対策可能 (約0.5m未満/約3.0m以上) C 3点	対策可能 (約0.5~1.0m/約3.0m以上) C 3点	対策可能 (約0.5~2.0m/約3.0m以上) C 3点	対策可能 (約0.5~2.0m/約3.0m以上) C 3点	対策可能 (約0.5~2.0m/約3.0m以上) C 3点	対策可能と考えられる C 3点	対策可能と考えられる C 3点
	経済性	土地取得費、建設工事費(※)	土地取得費+建設工事費 1.3 ※新築工事費を基準(1.0)とする B 4点 ↓ (8点)	建設工事費 1.0 ※新築工事費を基準(1.0)とする ※市有地のため土地取得費不要 A 5点 ↓ (10点)	建設工事費 1.0 ※基準である新築工事費(1.0)とほぼ同額 ※市有地のため土地取得費不要 A 5点 ↓ (10点)	建設工事費 1.0 ※基準である新築工事費(1.0)とほぼ同額 ※市有地のため土地取得費不要 A 5点 ↓ (10点)	建設工事費 1.0 ※基準である新築工事費(1.0)とほぼ同額 ※市有地のため土地取得費不要 A 5点 ↓ (10点)	土地・建物取得費+建設工事費 3.0~3.8 ※新築工事費を基準(1.0)とする D 2点 ↓ (4点)	土地・建物取得費+建設工事費 3.0~3.8 ※新築工事費を基準(1.0)とする D 2点 ↓ (4点)
総合評価 50点満点/100点満点換算 ※整備の実現性、美術館活動、集客性、経済性は「点数×2」		・経済性の評価が比較的優れている ・整備の実現性や美術館活動、集客性などの評価が高くない	32点 ↓ 64点	・経済性の評価が高く、利便性、集客性なども比較的優れている ・整備の実現性がやや劣る	37点 ↓ 74点	・美術館活動や利便性、集客性、経済性の評価が高く、その他の項目についても比較的優れている	46点 ↓ 92点	・利便性、集客性の評価が高い ・整備の実現性、経済性がやや劣る	34点 ↓ 68点

⇒ 評価・比較結果より、他の土地と比べ、**警固公園地下駐車場**がアジア美術館の拡充先としてふさわしい

※土地取得費・建設工事費について(再掲)
・土地の取得を基本的な条件とし、土地取得費には建物取得費も含む
・約7,500㎡~9,000㎡の床面積の規模感において、美術館の内装工事費を想定して試算
・建設工事費には外構工事(公園整備費等)、備品購入費(展示ケース等)等は含まないものとする

※安全性の面での対策は確実に行うものとする
※なお、既存の構造物を利用することにより、建設工事費の削減や環境負荷の低減も期待できる(詳細設計が必要)

2. 評価・比較（つづき）

※以下の配置計画については、候補地の評価・比較を行うにあたり、どの程度の展示室配置が可能であることを主眼に置いた検討を行ったものであり、具体的な配置計画については、今後詳細な検討を行うこととする。

○対象地ごとの個別検討 展示室空間等、拡充する機能の必要となる規模の面積が確保可能か、個別に検討を行った。

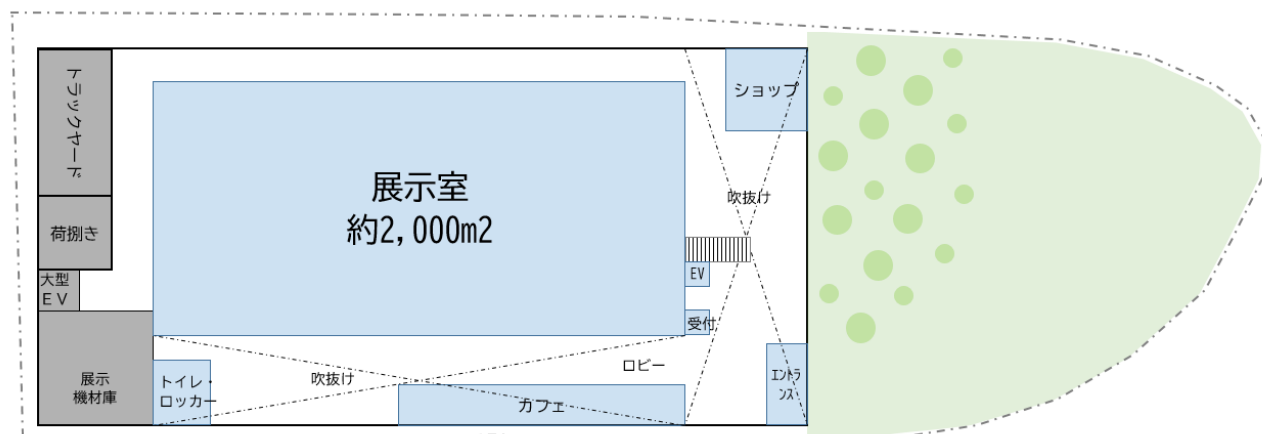
ボートレース福岡第4駐車場

ボートレース福岡第4駐車場については、臨港地区のうち、商港区に指定されている須崎ふ頭に含まれているため、施設配置にあたっては留意する必要があるが、約7,300㎡の敷地内で美術館配置の可能性について検討を行った。

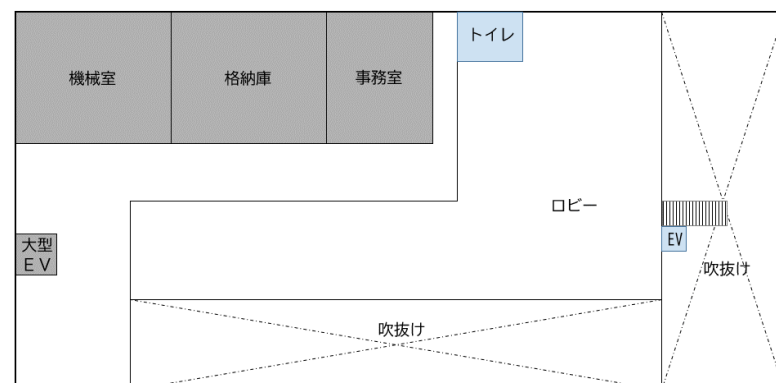
<位置図>



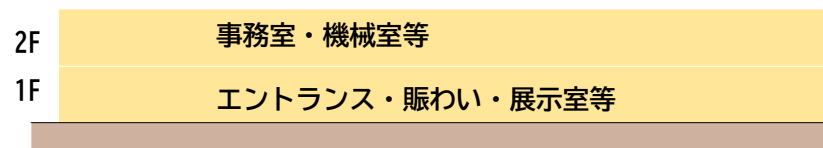
<1F平面図>



<2F平面図>



<立面図>



敷地面積：7,267㎡
建ぺい率：60%

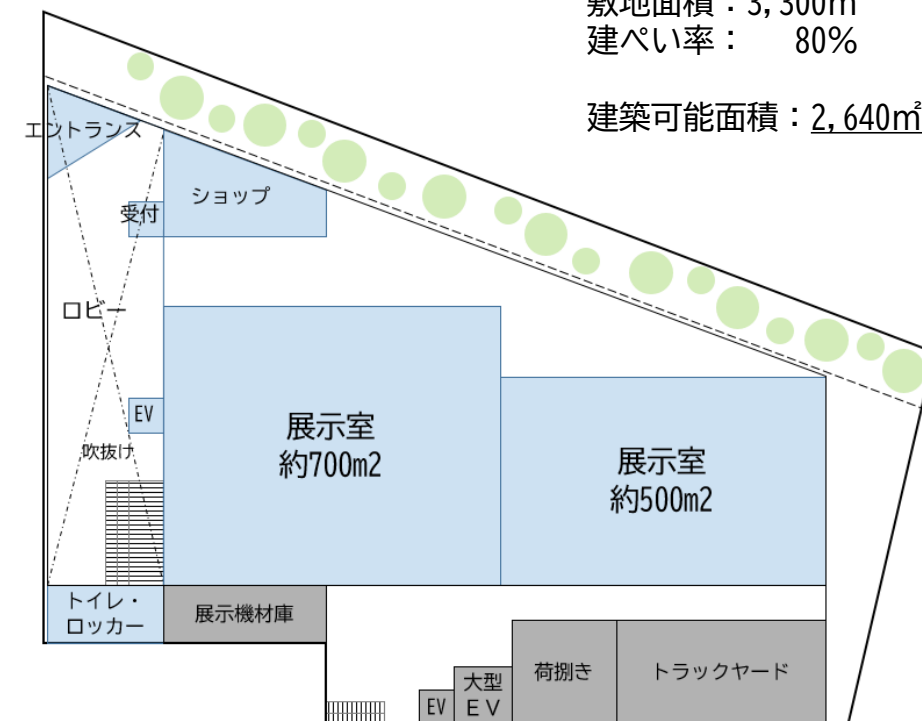
建築可能面積：約4,300㎡

冷泉小学校跡地

冷泉小学校跡地については、敷地面積6,800㎡の**中央部に国史跡「博多遺跡」**が存在し、建物を建てることや上空を構造物で覆うことは許可されないため、博多遺跡部分を除く両区画を比較し、面積が広くとれる**A区画にて美術館配置の可能性について検討**を行った。



<1F平面図>



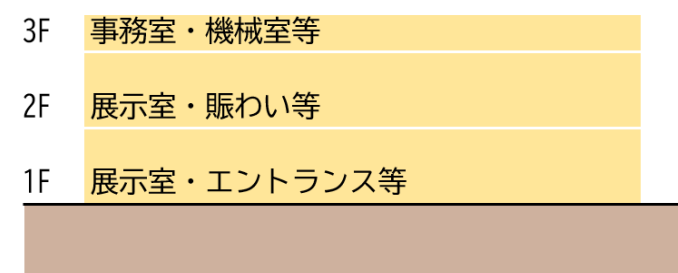
敷地面積：3,300㎡
建ぺい率：80%

建築可能面積：2,640㎡

建築可能面積に対して配置計画を行った場合、**展示室は、面積約1,200㎡**となり、必要な展示面積を確保するためには、**1・2階に展示室を配置する必要がある**。

<立面図>

必要な規模を確保するためには**3階建て**となる。（2,640㎡×3＝7,920㎡）



2. 評価・比較（つづき）

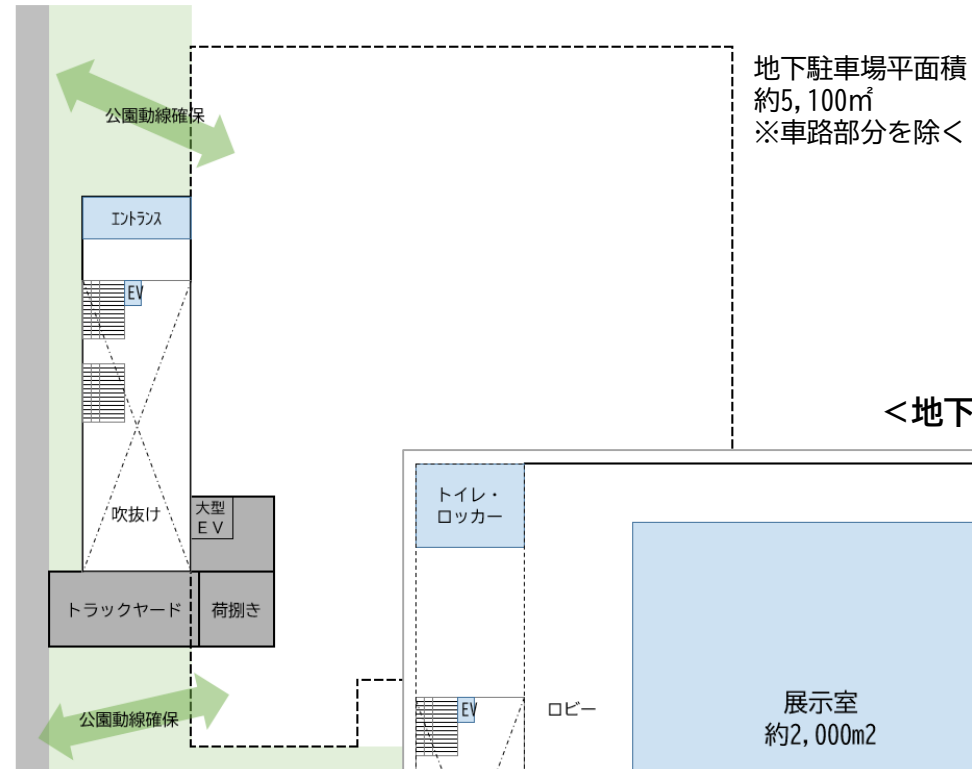
※以下の配置計画については、候補地の評価・比較を行うにあたり、どの程度の展示室配置が可能であることを主眼に置いた検討を行ったものであり、具体的な配置計画については、今後詳細な検討を行うこととする。

○対象地ごとの個別検討 展示室空間等、拡充する機能の必要となる規模の面積が確保可能か、個別に検討を行った。

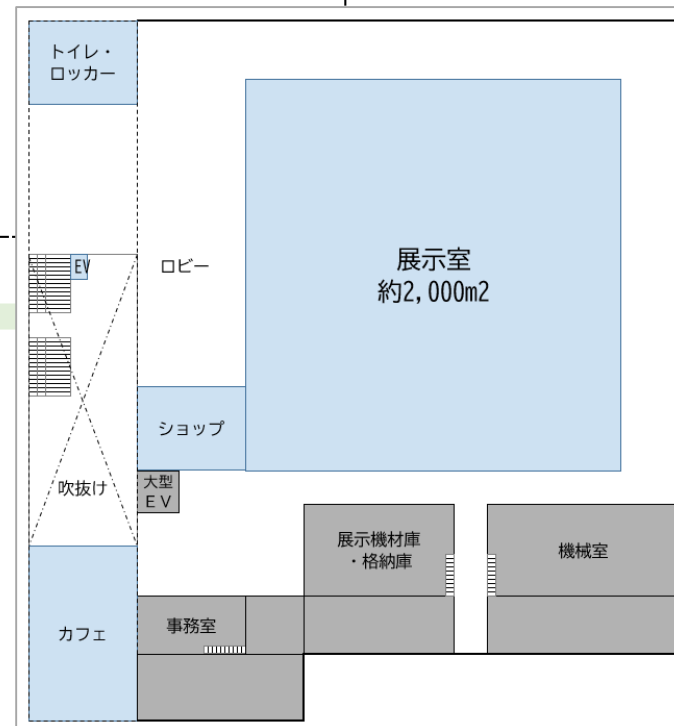
警固公園地下駐車場

警固公園地下駐車場については、地下部分の既存躯体を活用するとともに、現在の車路部分に地上と地下をつなぐための増築を行った場合の美術館配置の可能性について検討を行った。

<地上平面図>

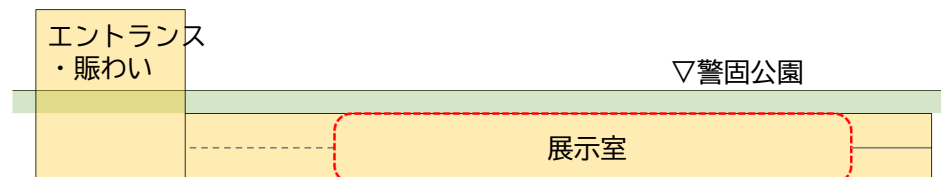


<地下平面図>



<断面図>

<< 増 築 >>

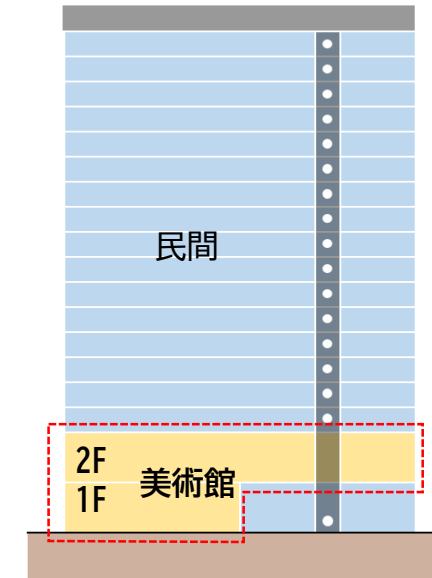


地下1・2階の二層構造を一層化し、
展示室に必要な天井高さを確保

天神・博多駅エリアの民間ビル内

民間ビル内については、天神ビッグバン・博多コネクティッドのエリア内、建築面積を5,000m²程度と仮定し、低層階での美術館配置の可能性について検討を行った。

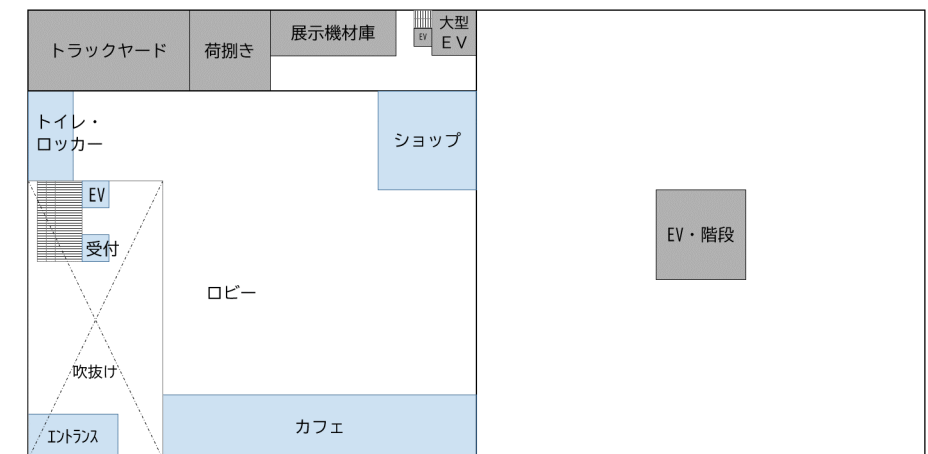
<立面図>



ビルの1・2F部分を美術館として区分所有することを想定

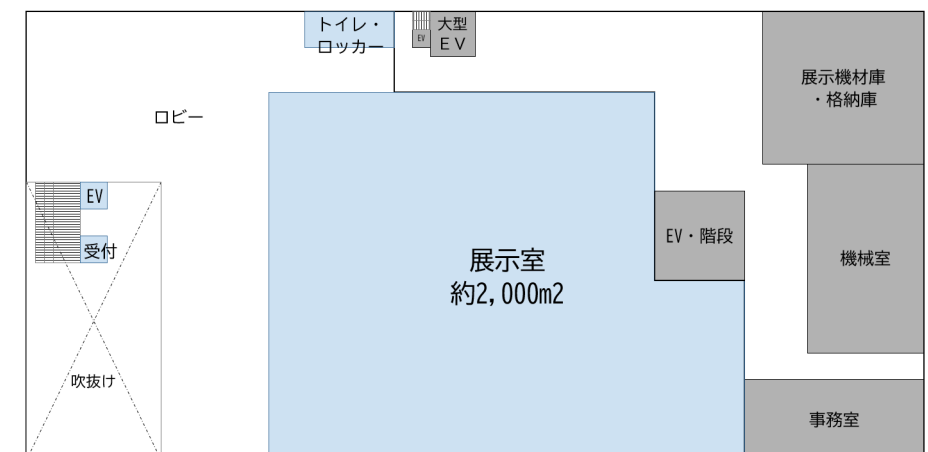
- ※ 現在のアジア美術館の課題解決を図るために、低層階への配置を検討
- ※ 美術作品の恒久的な展示の場であるために、区分所有を検討

<1F平面図>



美術館ゾーン ← 民間ゾーン

<2F平面図>



○警固公園地下駐車場の検証

警固公園地下駐車場については、既存構造物の構造的な検証、美術館としての活用可能性の検討を行った。

(1) 構造物概要

<警固公園地下駐車場(福岡中央自動車駐車場)>

所在地	福岡市中央区天神2丁目2番地 警固公園地下	構造	鉄筋コンクリート造 地上1階 地下2階
竣工年	昭和41年4月	基礎	直接基礎(べた基礎)
公 園 面積	約11,382㎡	延べ床面積	約11,292 ㎡
地 状 形 況	敷地は市街地で周辺には商業施設が立ち並ぶ平坦な地形である	既往調査	平成22年8月 福岡中央駐車場耐震検討業務
被災歴	平成17年3月20日に発生した福岡西方沖地震にて、震度6弱を観測し、それ以降震度4などの余震を繰り返し受けたが、建物に大きな被害は無い		

(2) 調査概要 (構造)

警固公園地下駐車場の既存構造物が、美術館として活用することが可能な構造的な健全度を有しているか確認するため、調査を行ったもの (令和6年6月に現地調査を実施)

①構造安全性の確認方法

平成22年の既往調査による耐震診断を基に、今回の調査で得られた経年変化の数値を考慮し、再計算を行うことによって、構造物の安全性の確認を行う
(Is値(構造耐震指標)が0.6以上の高い耐震性を有しているか)

②調査項目・結果

■コンクリートの強度を確認するもの

i. コンクリート圧縮強度試験

若干のコンクリート強度の低下が見られるが、耐震診断基準の適用範囲となる13.5N/㎟以上であることを確認した

■鉄筋コンクリートの劣化状況を確認するもの

ii. コンクリートの中性化深さ試験

中性化深さは若干進行しているが、鉄筋位置を超えるような中性化進行は認められなかった
※中性化が進むと、鉄筋の腐食が進行し、コンクリートにひび割れが発生する

iii. 鉄筋の腐食状況調査

内部の鉄筋は、錆が進行していない状況であるが、錆の状況がみられる箇所が僅かにある

iv. ひび割れ・漏水状況調査

部分的にひび割れ、漏水が見られるが、ひび割れの多くは幅0.2mm未満であり、
構造体に影響を与えるものではない

③調査結果まとめ

調査の結果、若干のコンクリート強度の低下や中性化の進行、わずかな鉄筋の錆や部分的なひび割れ、漏水等が見られるものの、構造的に致命的な欠陥となり得る劣化等はみられなかった
いずれも、今後の改修において必要な対策を行うことで対処が可能である
また、調査結果を踏まえて構造的な安全性の確認を行った結果、高い構造的耐力と耐震性を有する健全な構造物であることが確認できた

(3) 美術館としての活用可能性の検討

美術館としての活用が可能か下記のとおり検討を行った。

①検討の内容

展示室として必要な規模感として想定した、床面積 約2,000㎡～2,500㎡程度、高さ約4～5m程度の空間が確保できるかを確認するもの

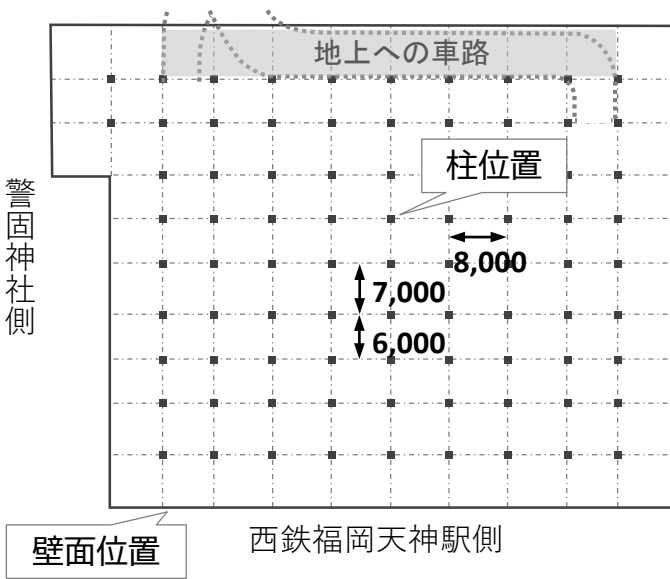
②検討の結果

必要な補強を施せば、展示室として必要となる空間を確保することが可能であることを確認した

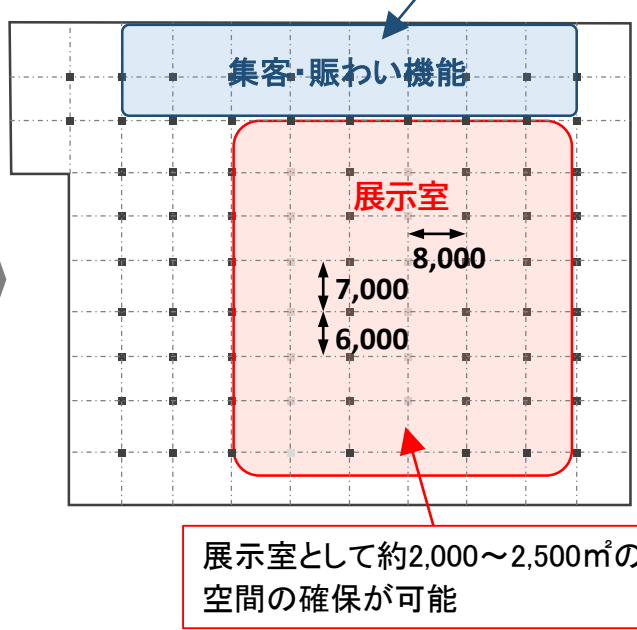
<補強内容>

- ・ 底板のみを残し、既存躯体を撤去
- ・ 新設の柱、主桁、床板を設置し、新たな躯体を構築

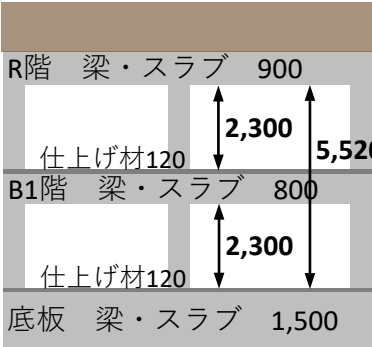
(現在の平面構成イメージ (B1階))



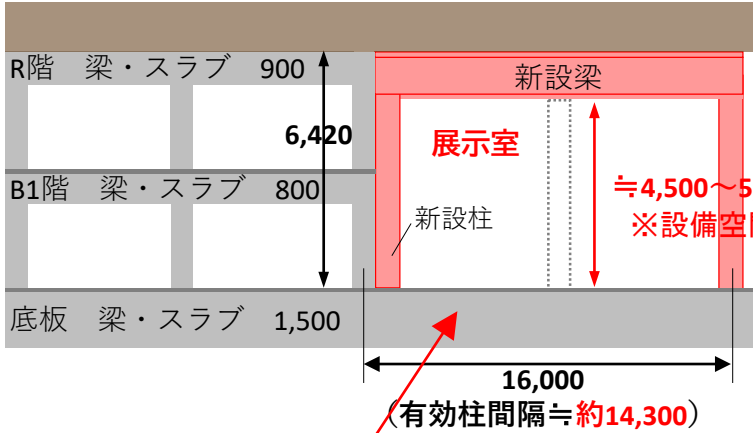
(検討案)



(現在の断面構成イメージ)



(検討案)



・展示室として高さ約4～5m、
柱間隔約14.3m程度の空間の確保が可能

(4) まとめ

構造の調査および活用可能性の検討の結果、警固公園地下駐車場を今後も既存構造物を活用することは可能と判断できる。また、美術館としての空間も確保しつつ活用することが可能であるため、アジア美術館の評価・比較の対象とする土地として有効と言える

経済振興委員会報告資料

アジア美術館の魅力向上の検討状況について

令和6年9月
経済観光文化局

アジア美術館は、1999年にアジアの近現代美術を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館として開館し、国内外の美術関係者からの評価は高く、その先駆的な取り組みによって、市民の貴重な財産となっている。しかしながら、その価値や魅力を広く市民に届け切れておらず、十分に活かしきれていない。

そのため、令和5年度より魅力向上の検討を行っており、令和6年2月に主な課題の整理と解決の方向性について報告を行ったところであり、今回、令和6年度に実施している検討状況について報告するもの。

1. アジア美術館の魅力向上の方向性

(1) 取り組みの方向性

アジア美術館の基本理念の観点から現状分析を行い、達成できている点と主な課題の整理を行い、今後の取り組みの方向性について検討を行った。

アジア美術館の「基本理念」

- ・ アジアとの交流拠点、福岡
- ・ 世界に唯一、アジアの近現代美術の専門館
- ・ 創造・発信する交流の場
- ・ 「まち」の中のライブな美術館

現状分析

達成できている点

- ・ 先駆的な取り組みを継続してきた結果、開館より25年を経て、確固たる地位を築いている
- ・ 優れた芸術性と独自性を持つアジアの近現代美術作品を収集・展示しており、国内外の美術関係者からの評価は高く、市民の貴重な財産となっている
- ・ アジア近現代美術の絵画、彫刻、版画、写真、映像など多様な作品を系統的に収集し、その数は約5,000点にのぼる

主な課題

- ・ 作品の価値や魅力を市民に十分に届け切れていない
- ・ 市民や観光客にとって、気軽に立ち寄る場所と認識されていない
- ・ 設備の老朽化により機能が低下している
- ・ 展示スペースや収蔵スペースが手狭になっている

基本理念に基づいて、先駆的に取り組んできた美術館活動を継続するとともに、直面するソフト・ハード両面の課題解決を図り、これまでの活動や蓄積にさらに磨きをかけて魅力向上を図る

(2) 課題解決の方向性

① コレクション展の充実・展示機能の拡充

市民がアジア美術に触れる機会を増加させ、価値や魅力を伝える

- ・ アジア美術に関心が無い人でも興味が持てる、コレクション展のテーマの設定や空間デザインの工夫などを行い、魅力的な展示をつくる
- ・ アジア美術の理解・認知の向上のため、代表的な作品をアジア美術館の「顔」として周知を図り、市民に身近に感じてもらう

コレクションを十分に活かした展示ができ、気軽に立ち寄り鑑賞するための展示機能の拡充

- ・ 大型作品をダイナミックに展示することが可能な容積および壁面長の確保や、メディアアートなどが展示可能な機器や設備の導入
- ・ 最新の現代美術作品の収集によりコレクションの充実を図り、コレクションを中心とした多様な企画展示に取り組む

<現在の取り組み状況>

コレクション展の魅力を広く市民に伝えることを目的とし、開館25周年記念コレクション展において、展示の工夫やSNSなど活用した広報強化等を行っている。



現在の展示状況

② 収蔵機能の拡充

コレクションを適切に管理・活用するための収蔵機能の拡充

- ・ 作品数、種類に合わせた、適切な保存管理が可能で十分な余裕がある収蔵庫
- ・ 作品研究室と一体化した収蔵機能の拡充

③ その他 魅力向上に資する機能の拡充

魅力向上に必要な集客・賑わい機能の拡充

- ・ ナイトコンテンツやユニークメニューとしての活用など、集客力を高め賑わいを創出できる新たな仕掛け
- ・ 周囲の目を引く美術館のアイコンとなる大型作品の設置
- ・ アジア美術が街中で様々な形でプログラムとして展開され、その中心にアジア美術館があるような、街中とつながれる仕組み

(3) 機能拡充の方向性

機能拡充の基本的な考え方

- ① **展示機能** | コレクション展示のソフト・ハード面での改善をおこない、多様な人々がアジア美術に触れるためには、気軽に立ち寄れ、集客が見込める場所での展開が望ましい
- ② **収蔵機能** | 作品の保存・管理には、空調システムや高いセキュリティを備えた設備が必要となるため、既にこれらの機能を備えた現館の機能を活用しながら、不足する面積と設備を拡充し、収蔵機能と調査研究機能を一体化することが望ましい
- ③ **集客・賑わい機能** | 多様な来館動機を創出し、アジア美術との出会いの機会をつくるため、展示機能と一体的に展開することが望ましい

機能拡充の基本的な考え方を踏まえ、魅力向上を図るためには、現在の博多リバレイン7・8階の限られたスペースの再編成では対応が困難であることに加え、市民や国内外からの観光客が集いやすい場所で新たな拡充スペースが必要となる。

このため、現館との機能分担により、それぞれの場所の特性を活かした施設拡充について検討する。

<主な機能分担のイメージ>

【現アジア美術館(7・8階)】

- ★**収蔵機能**
- ★**貸館機能**
市民や企業の発表(展示)の場
- ★**調査研究機能**
アーカイブ(これまでに収集・蓄積してきた作家資料、所蔵品資料、写真資料、映像資料等)、ライブラリー、作品研究室

【拡充スペース】

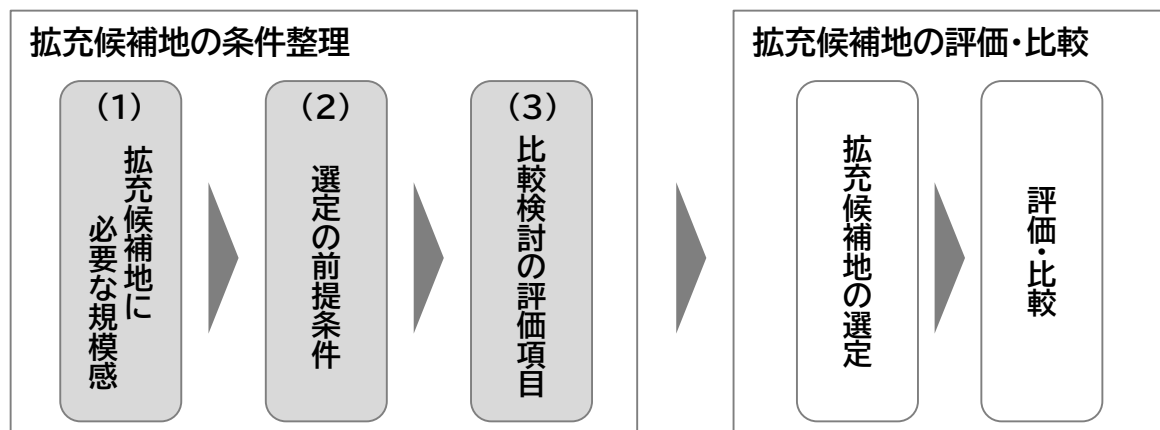
- ★**展示機能**
コレクションを中心とした多様な企画展示
魅力的でダイナミックな展示
- ★**集客・賑わい機能**
多様な来館動機の創出
アジア美術との出会いの機会の創出

★拡充する機能 / ■既存の機能

次に、まずは機能拡充に必要なスペースの候補地について検討を行う

2. 拡充候補地選定の進め方

拡充候補地選定に向けては、以下の手順にて条件を整理し、拡充候補地の評価・比較を行っていく。



3. 拡充候補地の条件整理

(1) 拡充候補地に必要な規模感

拡充候補地を検討するために、必要な規模感を想定する。「主な機能分担のイメージ」に基づき、拡充候補地に設けたい、「展示機能」及び「集客・賑わい機能」に必要なとなるスペース、並びにそれに伴う「共用・管理スペース」を既存の国内美術館の事例等を参考に以下のとおり設定する（一つのモデルとして想定を行ったものであり、詳細な施設規模については今後検討を行う）

項 目	内 容	面 積(㎡)
★展示機能 〔コレクションを中心と した多様な企画展示〕	近年整備された公立美術館の事例を参考とした 展示室の面積	2,000 ～ 2,500
★集客・賑わい機能	近年整備された公立美術館の事例を参考とした 飲食や物販、交流・イベントスペース等の面積 (象徴的なエントランス等も含む)	1,000 ～ 2,000

上記に加え、美術館として必要な共用・管理スペース約4,500㎡を加え、以下のとおり施設規模感を想定

床面積規模の想定 約7,500～9,000㎡程度
展示室の高さの想定 約4～5m

(2) 選定の前提条件

■ 現在の博多リバレイン内での拡充について

前述のアジア美術館の魅力向上の方向性を踏まえて、まずは現在の建物での配置について検討を行った

＜結 果＞ リバレイン低層階は、商業施設、複合施設という性格上、フロア中央部のエスカレーターや屋内通路等の共用部が多い。商業施設、複合施設としての導線を確保しながら、美術館として必要なロビーや作品搬出入通路などの共用・管理スペースを確保したうえで、想定するまとまった規模の整形な展示室を確保することは極めて困難

博多リバレイン内での拡充の検討は極めて困難であるため、他の候補地での検討を行う

■ 拡充候補地選定の前提条件

① 候補地の状態について

計画のしやすさや、土地取得の可能性の高さといった、実現可能性の観点から、公有地を優先とし、**空地や活用の可能性が見込める予定の場所等であること**

② 候補地の規模について

左記で想定した規模を確保可能な土地とする

→ **床面積規模の想定 約7,500～9,000㎡程度**

→ **展示室の高さの想定 約4～5m**

③ 候補地が位置するエリアについて

下記の視点を元に望まれるエリアを検討する

○**基本理念を体現できる** –「まち」の中のライブな(活き活きとした)美術館、都心型美術館–

- ・都心部に位置する場所、周辺施設(商業施設、オフィスなど)が充実している場所
- ・時代を先取りする、最先端の文化発信にふさわしい場所

＜福岡アジア美術館の基本理念(抜粋)＞

「まち」の中のライブな美術館

福岡アジア美術館は、福岡と博多の「まち」のエネルギーがうずまく都心にあります。この「まち」に生きる人々が、アジア美術を通してアジアの「いま」へ最短距離でアクセスできる**都心型の美術館**です。また、アジアの美術作家たちも、「まち」特有の場所や表現方法を活かして、「まち」を生きる人々へとアプローチしていきます

○**気軽に立ち寄れ、より多くの、多様な集客が見込める**

- ・交通アクセスが良く、人流が多い場所
- ・市民を中心とした、オフィスワーカーや買い物客、国内外からの観光客など幅広い目的を持った人々が集まる場所

○**美術館の特徴が最大限発揮できる**

- ・美術館が「福岡の顔」として存在感を示す場所
- ・周辺施設と連携しながら、アジアとの交流拠点かつアート、文化観光の核として展開できる場所

→ **都心部に位置する土地であること**

(3) 比較検討の評価項目

今後は、前述の前提条件を踏まえ、さらにアクセスや都市機能の集積、土地の面積などの観点で選定に向けた条件を絞り込みながら拡充候補地を選定し、以下に示す、土地の状況、利便性、経済性等の観点から評価項目を設定し、拡充候補地の評価・比較を行う。

＜拡充候補地の比較検討の評価項目＞

- 土地の状況(土地の規制状況、整備の実現性)
- 美術館活動(美術館の魅力向上、地域連携、地域の価値向上)
- 利便性(広域からのアクセス、交通アクセス)
- 集客性(歩行者交通量、最寄りの公共交通機関の乗降客数)
- 安全性(安全安心)
- 経済性(土地取得費、建設工事費)

4. 今後の進め方

今後、拡充候補地の選定、評価・比較を行うとともに、現アジア美術館(7・8階)との機能分担や機能強化も含め、検討を進めていく。また、引き続き、展示の工夫やSNSなどを活用した広報強化等を行い、コレクション展の充実を図り、アジア美術館の魅力を広く市民に伝えていく。